

ミッションの再定義(人文・社会科学、学際・特定分野)

振興の観点

成熟社会の到来、グローバル化等の社会構造の変化に伴い、新たな学問分野の進展や時代の動向に対応した融合領域等の開拓が期待されている。このため、本分野においては、養成する人材像の一層の明確化に取り組むとともに、進学・就職状況や18歳人口動態を踏まえつつ、全学的な観点から定員規模・組織の見直しを推進し、積極的に教育の質的転換、国際交流・発信の推進等、各大学の持つ強み・特色をいかした教育研究の質的充実、競争力強化につながる機能強化を図る。

各大学の特色・強みを活かした機能強化の例

社会に有為な人材の輩出を目指した特色ある教育

- (例)
- 小樽商科大学** 実践的な語学教育、アクティブラーニングを取り入れた実学重視の人材育成
 - 東北大学** 全国の会計大学院中トップクラスの公認会計士試験合格者を達成し、会計プロフェッショナルを輩出
 - 筑波大学** 筑波スタンダード(教育宣言)に基づく教育改革を推進するとともに、体育・芸術分野を要する総合大学として、専門の枠を超えた異分野融合型教育プログラムを基礎とした人材養成
 - 東京芸術大学** 芸術分野において、少人数教育の徹底と、海外の著名な芸術家等からの指導や作品の共同制作等を通じたグローバル人材養成
 - お茶の水女子大学** 女性の社会的活躍を推進するため、高度な専門的知識を修得したグローバル女性リーダーの育成
 - 一橋大学** 社会科学の研究総合大学として、チューニングによるカリキュラム調整やジョイントプログラム等により、教育の国際通用性を高めグローバル化を推進
 - 横浜国立大学** アクティブ・ラーニング等を通じて、経済・経営の専門性を備えたグローバル人材を養成
 - 大阪大学** 工学修士と経営学修士とを取得するMOTコースの設定等により社会の人材ニーズに応える最先端プログラムを実施
 - 神戸大学** 経営実践能力等を養成するコースワークを重視したトップスクールモデルを導入し、国際的に通用する研究者と高度職業人を養成
 - 奈良女子大学** 生活科学に関するフロンティア教育により生活者の視点を持って社会で活躍できる女性リーダーを育成
 - 岡山大学** 地元企業との双方向型授業、中小企業経営者による実践科目を取り入れた実社会との連携を強化した人材育成

地域振興・社会貢献に資する取組

- (例)
- 岩手大学** 宮沢賢治をはじめとした「岩手の文化的豊穡性」の解明により、地域文化の発展に貢献
 - 福島大学** 空間放射線量の測量及び地図化により、風評被害対策に取り組み、地域経済の復興を支援
 - 香川大学** 小豆島の特産をいかしたオリーブ加工ビジネス事業モデル研究により地域の産業振興に貢献
 - 鹿児島大学** 奄美市及び徳之島町に「奄美サテライト教室」を開設し、人材養成や地域振興を推進

大学の主な取組・方向性

教育

- ・言語力、表現力の涵養
- ・論理的、独創的な思考力の養成
- ・問題発見・解決能力の養成
- ・少人数教育と双方向型授業や個別指導
- ・異文化体験学習、フィールドワーク、体験型授業の実施
- ・カリキュラムマップなど構造的に教育課程を編成
- ・コアカリキュラム、グレード・ポイント・アベレージ(GPA)、制度の導入
- ・ダブルディグリープログラムの実施
- ・資格取得のための実習科目の配置
- ・国際的な発信能力の養成
- ・英語論文指導、国際学会での発表

研究

- ・個人から組織的な研究への展開
- ・大学独自の重点的研究領域の創出
- ・地域文化、地域社会の振興に寄与する研究の発展
- ・現代社会の課題解決、文化の発展
- ・基礎的研究を最新の学問的課題に照らした課題研究
- ・国際的な研究ネットワークの形成
- ・海外大学との連携、学術交流協定の締結
- ・特定分野における国内外の研究機関との連携による組織的研究

地域貢献

- ・自治体や地域住民と協力した公開講座、文化事業の実施
- ・地域文化の再興、心のケア活動
- ・地域活性化のための商品開発、付加価値化事業の実施

各大学の強み・特色ある研究

- (例)
- 北海道大学** スラブ・ユーラシア地域及びアイヌ文化振興に寄与する研究
 - 東京大学** 死生学・応用倫理分野の学際的研究など、人文科学の諸問題における世界最高水準の先端的研究の推進
 - 金沢大学** 文化資源学分野における教会壁画や遺跡などの世界の文化遺産の総合的・多角的な研究及び保護・活用法の開発
 - 名古屋大学** 東アジアの経済発展の諸相を産業クラスター政策との関連で解明する研究を通じた国際的な共同研究ネットワークの構築
 - 京都大学** 卓越した所蔵研究資源を活用した研究など日本学・アジア学分野における世界最高水準の研究の展開
 - 和歌山大学** 国内外の観光学分野における先端研究者や観光業界のリーダー等と連携し学術研究としての観光学を確立
 - 広島大学** 平和科学研究プロジェクトの取り組みとネパールやフィリピンに国際協力研究拠点を形成
 - 愛媛大学** 四国遍路の歴史や特質の学際的な研究を中心とした世界の巡礼との国際比較研究
 - 九州大学** 世界考古学会議を牽引する考古学と地球科学分野を融合したアジア埋蔵文化財先端研究
 - 熊本大学** 交渉紛争解決学や先端倫理学など新たな学問分野の開拓
 - 鹿屋体育大学** スポーツ実践を基にした経験知の論述とその客観的な検証を行うスポーツパフォーマンス研究
 - 琉球大学** 長崎県松浦市鷹島の沖合海底で元寇沈船を発見した手法を有する水中考古学研究

大学共同利用機関法人

当該分野の中核拠点として、貴重な資料等を提供し、全国の大学の研究者との共同利用・共同研究を実施。更に大学の教育にも貢献。
人間文化研究機構 人間の文化活動並びに人間と社会及び自然との関係に関する研究

- ・本資料は、各大学の強みや特色等の一部であり、機能強化の方向性を紹介したものである。
- ・法学分野は、今回のミッションの再定義には含まれていない。

	茨城大学 人文科学分野
学部等の教育研究 組織の名称	人文学部（第1年次：395名） 人文科学研究科（M：25名）
沿 革	大正9（1920）年 水戸高等学校 設置 昭和18（1943）年 茨城師範学校 設置 昭和19（1944）年 茨城青年師範学校 設置 同 年 多賀工業専門学校 設置 昭和24（1949）年 茨城大学 文理学部 設置 昭和42（1967）年 文理学部を改組し、人文学部を設置 平成3（1991）年 人文科学研究科 設置
設置目的等	<p>昭和24（1949）年に、人文・自然・社会の諸科学に関する文理学部本来の専門教育、教育学部の5教科の専門教育、高校教員免許状取得のための教育、全学の一般教育を目的として、文理学部が設置された。</p> <p>昭和42（1967）年、文理学部を改組し、人文、コミュニケーション及び社会の諸科学に係る専門の学芸を教授するとともに、幅広い深い教養及び総合的な判断力を培い、豊かな人間性を涵養することを目的として、人文学部が設置された。</p> <p>平成3（1991）年に、人間の文化と現代社会が直面する学術的・政策的諸課題に関する研究を行い、そこから得られる専門知識の教授をとおして、研究・教育の分野に限らず産業界はじめ広く知識基盤社会の中核を多様に担い、文化と社会の持続的発展のために貢献しうる高度で知的な素養のある専門職業人（中核的専門職業人）の育成を図ることを目的として、人文科学研究科が設置された。</p>
強みや特色、 社会的な役割	<p>【総論】</p> <p>茨城大学における人文科学分野においては、真理の探究を図るとともに、地域における課題解決の役割を果たすべく、教育研究を実施してきた。</p> <p>引き続き、上記の役割を果たしながら、教育及び研究において明らかにされる強み・特色・役割等により、学内における中長期的な教育研究組織の在り方を速やかに検討の上、実行に移す。</p> <p>【教育】</p>

(学部)

- コミュニケーション学や、経済学・経営学等の社会科学諸分野の教育研究を通じて、専門分野に特有の知識・ものの見方・考え方・方法論等を学びつつ、就業力やプレゼンテーション能力等の特定の分野を超えた汎用的な学士力を備えた広く社会で活躍できる人材を養成する。
- このため、「地域連携論」や「インターンシップ」、「プロジェクト実習」等を学部共通のプログラム科目として教育課程に組み込むとともに、卒業時に必要とされる資質や能力を可視化しつつ、専門分野ごとの体系的な教育課程を編成している。また、メディア、IT 分野の教育にも積極的に取組み、理論・歴史・国際比較などの学習を通じてメディアに関する幅広い教養と思考力を重視したメディア教育を実施している。
- 今後は、これまでの地域連携等の充実を図り、地域の期待に応え地域の課題解決に中心的な役割を果たすとともに、社会人の学び直しを強化する。また、マギル大学（カナダ）やペンシルバニア州立大学（米国）、インドネシア教育大学等との国際交流の実績を踏まえ、地域の国際交流の拠点としての役割を果たしていく。このため、卒業時に必要とされる資質や能力を可視化しつつ体系的な教育課程を編成するとともに、学生の能動的学習を促す教育の実施や組織的な教育体制等を整備すること、また、これらの取組の実施だけではなく、可視化した資質や能力に応じた取組の成果や効果等を適切に把握していくことにより、学士課程教育の質的転換に取り組む。

(大学院)

- 例えば、判断力、構想力、実践力等、産業界をはじめ広く知識基盤社会の中核を多様に担い、現代社会の持続的発展のために貢献しうる専門職業人を養成する。
- このため、教育課程は、基盤養成系科目、研究推進科目、キャリア支援科目及び修士論文から構成され、専門性と俯瞰性を追求する体系的な構成としている。
- 今後は、社会人、留学生を含め、時代の動向や社会構造の変化に的確にこたえ、課程制大学院の趣旨に沿った教育課程と指導体制を充実・強化する。

【研究】

- 人文科学分野における研究実績をいかし、原子力発電所がある東海村や中山間地域活性化等の地域課題をテーマとして組織的な研究を推進するとともに、その成果を地域との共同企画で住民や学生に還元している。また、地域史に係る研究に関しても、自治体や市民からの期待・要請があり、「地域史シンポジウム」という形での公開・発信を通じて、我が国の社会・文化に関する研究成果を国際的に広く発信する。

- これらの取組を通じて生み出された研究成果は、地方自治体の総合計画策定や地域活性化に貢献している。
- 今後は、共同研究ユニット制度、重点研究制度及び推進研究プロジェクト制度等により組織的な研究を推進するとともに、茨城県央・県北地域を中心に、より広い範囲での地域振興・地域の課題解決を目的とする組織的研究活動に取り組む。

【その他】

- これまでの地域連携・地域貢献の実績を踏まえ、地域づくり・まちづくりへの提言を行うとともに、新たに設置した市民共創教育研究センターを中心に、地域の核として教育研究活動に取り組む。
- 全学の機能強化を図る観点から、18歳人口の動態や社会ニーズを踏まえつつ、学部・大学院の教育課程及び組織の在り方、規模等の見直しに取り組む。
- 入学辞退率の改善のため、魅力あるカリキュラムの再構築、定員規模の見直し等に取り組む。